R.I.会長
K.R. “ラビ” ラビンドラン
Be a gift to the world
世界へのプレゼントになろう

◆ SPECIAL REPORT ◆

R.I.D.2750 Chiyoda & Pacific Basin Group
The Rotary Club of
TOKYO SUNRISE SHIODOME

2015-16 年度　会長 梅澤武男
クラブテーマ「奉仕を実践しロータリーを楽しもう」

R.I.D 2750
The Rotary Club of TOKYO SUNRISE SHIODOME

◆第 2750 地区ガバナー：水野　功　地区テーマ「未来に向けてロータリーの心と原点を大切に」

No.56 10 Dec. 2015 発行

特別増刊号　2015 ボランティア活動 #2

インドネシア孤児院支援　奉仕プロジェクト

支援内容：チャリティーコンサートを開催し、集まった寄付金を２か所の孤児院へ寄付

チャリティーコンサート　【日時】2015 年 10 月 3 日（土）【会場】Yamaha Music Indonesia Auditorium
孤児院を訪れて ①　【日時】2015 年 11 月 28 日（土）【場所】Bandung「At-Tamin」
孤児院を訪れて ②　【日時】2015 年 12 月 2 日（土）【場所】Jakarta「YAYASAN IRTIQO KEBAJIKAN」

≪チャリティーコンサート 2015 in Jakarta≫

【日時】2015 年 10 月 03 日（土）【会場】Yamaha Music Indonesia Auditorium
【主催】PT.APM Japan Consulting
【協賛】東京サンライズ汐留ロータリークラブ / ジャカルタ・メンテンロータリークラブ
【観客動員数】202 人　　【寄付総額】Rp.43,599,400－

ジャカルタメンテンＲＣとの初めての協同プロジェクトともなったチャリティーコンサート。当日は、インドネシア人・日本人の多くのお客様にお越しいただき盛況に終わりました。クラシック音楽がほとんど馴染みのないこの国での開催は大変なことも沢山ありましたが、現地の方々にも大変喜ばれ意義のあるものとなりました。小さなお子様のご参加も目立ち、クラシック音楽を聴くことに慣れていないインドネシア人のみなさんのためにもエピソードの紹介、クイズなどを取り入れお客様と対話形式でコミュニケーションを図り、ピアノの下で迫力ある音のシャワーを体感。聴きやすい珠玉の名曲をふんだんに取り入れ、最後まで飽きさせない内容で喜ばれました。

子どもも楽しめるクラシックを演奏

ピアノの下にもぐって音のシャワー体感

主催者代表挨拶

コンサートでは、ジャカルタメンテンＲＣのメンバーのみなさんから寄付の授与を受けました。こちらのクラブは英語での例会を開催しており、とても国際的で、奉仕プロジェクトも積極的にどんどん行う活気のあるクラブです。

◆会長：梅澤武男　◆幹事：湯川愛里　◆副会長：愛知とし子【発行責任者】梅澤武男
【創立】2014 年 10 月 15 日　【例会日】毎週木曜日 12：30～13：30　【例会場】ロイヤルパークホテルザ汐留
〒160-0022 東京都新宿区新宿 7-27-45 鈴木ビル 402 / TEL:03-6273-9030 / FAX:03-6413-1775
【URL】http://suns-rc.org/　【E-mail】office@suns-rc.org

ジャカルタメンテン RC 2015-16 年度の会長レナさん、ヘンリさんとバナー交換。

主催である「PT.APM Japan Consulting」の多くのスタッフのみなさんにもご協力をいただきました。

≪孤児院を訪れて　①　Bandung 編≫

【訪問日】2015 年 11 月 28 日（土）　　【場所】Bandung「At-Tamin」

Umar さんと奥様の Siti さんで運営されている民間の孤児院「At-Tamin」では、現在 53 名の子どもたちが生活をしています。ここが出来たきかっけは、Umar さん自身も孤児だったことです。彼は大学生の時に既に奥様とご結婚され、7 人の男の子の孤児を引き取っていたそうです。

ここでは、主にパプアニューギニアに近いジャワの西部に位置する「クパン」という地域の子どもたちのお世話をしています。大人は Umar さんと Siti さんの二人だけなので、全員が料理、掃除、洗濯などをして助け合って生活しています。食べていくのもやっとの生活ですが、学校にはきちんと通わせています。
そして、子どもたちが大学を卒業したら故郷のクパンに帰らせるように指導しています。

運営費は全て民間の寄付から成り立っています。1 度だけ国に申請したことがあったそうですが、日本円でわずか 5 万円相当のお金をもらうだけでも、大変面倒な手続きがあった上に、色々な手数料が引かれてしまい、最終的に手元に残ったのはわずか 2 万円だったそうです。今では Umar さんが民間からの寄付だけに頼っており、日々いろんな方に寄付のご協力の説明にいって理解をいただいているそうです。

55 人の 1 日の食費は、1,500 円。これは、お米のみでなんとかおなかを満たすことが出来る最低金額です。今の私たちの生活からは考えられないほどです。日々の食費を考えると、食事の回数は 1 日 2 回。おかずがないことも多く、とにかくお米があれば何とかなるというお話を聞いた時には何とも言えない気持ちになりました。もちろん、食べ物が多くあるときは、子どもたちももっと食べることが出来ますが、成長期の子どもたちにとっては、まだまだ足りません。

教育に関しては、イスラム教や法律を教える学校が支援をしているので、子どもたちはその学校に通っています。しかし、元々の教育レベルが低く、8 歳になっても文字を読めない子どもたちが沢山いるそうで、それをなんとかしようと努力されています。

親が育てられない理由は様々ですが、特に興味深かったのが≪宗教の違い≫が原因で別れることがあり、その場合父親も母親のどちらも子どもを引きとらないということ。その他、両親がエイズなどの病気になってしまい育ててもらえなくなり孤児になるケースもあり、その子どもは大丈夫なのかとても気になりました。

子どもたちを育てていく上で難しい点は、民族の違いからくる性格の違いだそうです。特に東の人たちは暴力的で、暴れたり、暴力を振るうのは日常的なことなのだそうです。食事のマナーもひどく、扱い方が難しく大変なのだそうです。

孤児はまだまだ沢山いるため、もっと引き取りたいと考えていますが、ここにはまともなキッチンもなく、部屋の数も少ないので、せめて男女が別々の部屋になるようにしたいとおっしゃっていました。
生活していくことも、まだまだ大変なので、今回限りだけではなく引き続きの支援のお願いもありました。

外観。お祈りの場所でもあります。

建物の裏。ヤギや羊を飼っている小屋。

東京サンライズ汐留 RC とジャカルタメンテン RC のバナーを寄付金と共にお渡ししました。

160 食分のインスタントの麺類

増築予定の場所

子どもたちと一緒に
前列右側の女性は通訳のイルマさん

お見送りに出てきてくれた
子どもたち
とても明るくて笑顔いっぱいでした

≪孤児院を訪れて　①　Jakarta 編≫

【訪問日】2015 年 12 月 2 日（火）　　【場所】場所】Jakarta「YAYASAN IRTIQO KEBAJIKAN」

ジャカルタの郊外にある「YAYASAN IRTIQO KEBAJIKAN」という孤児院へ、ジャカルタメンテン RC のメンバーのみなさんと行ってきました。

この孤児院の活動は、18 年前の 1997 年に孤児とその友達の 2 人の活動から始まりました。
現在は、NPO の形をとっていますが、どちらかというとＮＰＯに近い団体です。最初は、2 人の子どもを預かり、資金を集めて建物を立て、徐々に子どもたちが増えていき、今では 59 人の子どもたちが生活しています。

ここでは、赤ちゃんから高校生までが住んでいます。高校を卒業すると同時にそれぞれの家族もみつけてあげ、孤児院も卒業するというシステムをとっています。

この孤児院の特徴は、全ての子どもを受けいれることが出来ないため、勉強にやる気のある子どもで、IQ テストや性格診断をはじめ、様々なテストを行い総合的な判断で優秀な子どもを平均して 50 名中 10 名ほどを選び受け入れています。ジャカルタ市内と地方では学力の差がとてもあるそうです。

施設の他、隣に学校を建築して子どもたちはそこで学んでいます。現在、中学校も建設中とのことです。

建物の外観

ジャカルタメンテンＲＣの方々と寄付金と
沢山のパンをお渡ししました。

勉強する子どもたち

孤児院スタッフの方

小さな図書室

現地に行ってみないとわからないことが沢山あります。貧富の差も激しいこの国では、貧しい人たちの生活は子どもたちに限らず大変です。特に Bandung の孤児院では、食べることと学ぶことに必死で文化的なことに触れる機会はほとんどありません。ここをご紹介いただいた方が、子どもたちは 1 度だけ生演奏を聴いたことがあり、それはそれは大喜びしたことがあったそうで、またそのような経験をさせてあげたいとおっしゃっていました。是非、この活動を継続していき、2016 年はジャカルタでチャリティーコンサートを開催し、その寄付金と共に、地方では、子どもたちや街の人々のためにコンサートを開き、心の喜びもお届けしたいと思っています。ロータリアンとしてでなく、一人の人間としても微力ながらできることを頑張っていきたいと強く思いました。

このプロジェクトには本当に多くの皆様が係わってくださり、温かいご支援・ご協力を頂き、無事に終えることが出来ました。このような貴重な経験ができたことを心より感謝しております。
本当にありがとうございました。

≪報告：愛知とし子≫